

| | | |
|----|------------|-------|
| 15 | 上越市立大手町小学校 | 24～26 |
|----|------------|-------|

平成26年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

真の〈自立〉と〈共生〉を目指し、既存の教科・領域等の構成原理を踏まえつつ、これからの社会を切り拓いていく資質・能力の育成という視点から新たな教科・領域等の枠組を構築する。

2 研究の概要

これからの社会を切り拓いていく資質・能力を【探究力】【情報活用力】【コミュニケーション力】【創造性】【自律性】【共生的な態度】の6つとし、これらの基盤を【内省的な思考】であるとする。そして、これらの資質・能力を発揮する「自ら学び、共によりよく生きようとする子ども」の育成を目指し、「生活・総合」「数理」「ことば」「創造・表現」「健康」「ふれあい」の「6領域」と、各領域での学びを子ども自身がつなぎ、統合する「学びの時間」を新設する。

具体的には、①6つの資質・能力を育成するための「6領域」の開発、②各領域での学びを子ども自身が統合する「学びの時間」の開発、③各領域における資質・能力を評価する具体的指標の設定と分析・整理、④各領域における指導内容や指導方法の整理、⑤新しい教育課程における評価内容の整理・評価方法の開発、に取り組み、当校としての提言を行う。

3 研究の目的と仮説等

（1）研究仮説

これからの社会を切り拓いていく資質・能力を育成する「6領域」と「学びの時間」により教育課程を編成・実施することで、「自ら学び、共によりよく生きようとする子ども」をはぐくむことができる。

（2）教育課程の特例

- 各教科、道徳、外国語活動、特別活動、総合的な学習の時間の内容や時数を精選・削減・統合し、「生活・総合」「数理」「ことば」「創造・表現」「健康」「ふれあい」の6領域を設置
- 各領域での学びを子ども自身が統合する「学びの時間」を設置

4 研究内容

（1）教育課程の内容

大手町小学校の教育課程の特徴

- I 子どもの「思い」や「願い」を重視した教育課程
- II 「6つの資質・能力」の発揮を目指した教育課程
- III 「6領域」と「学びの時間」による教育課程
- IV 体験活動と言語活動のつながりを重視した教育課程

I 子どもの「思い」や「願い」を重視した教育課程

教育課程を編成するに当たっては、子どもの「学びたい」「できるようになりたい」という願いを重視する。「学びたい」「できるようになりたい」という願いは、人が〈自立〉して生きていくための核にな

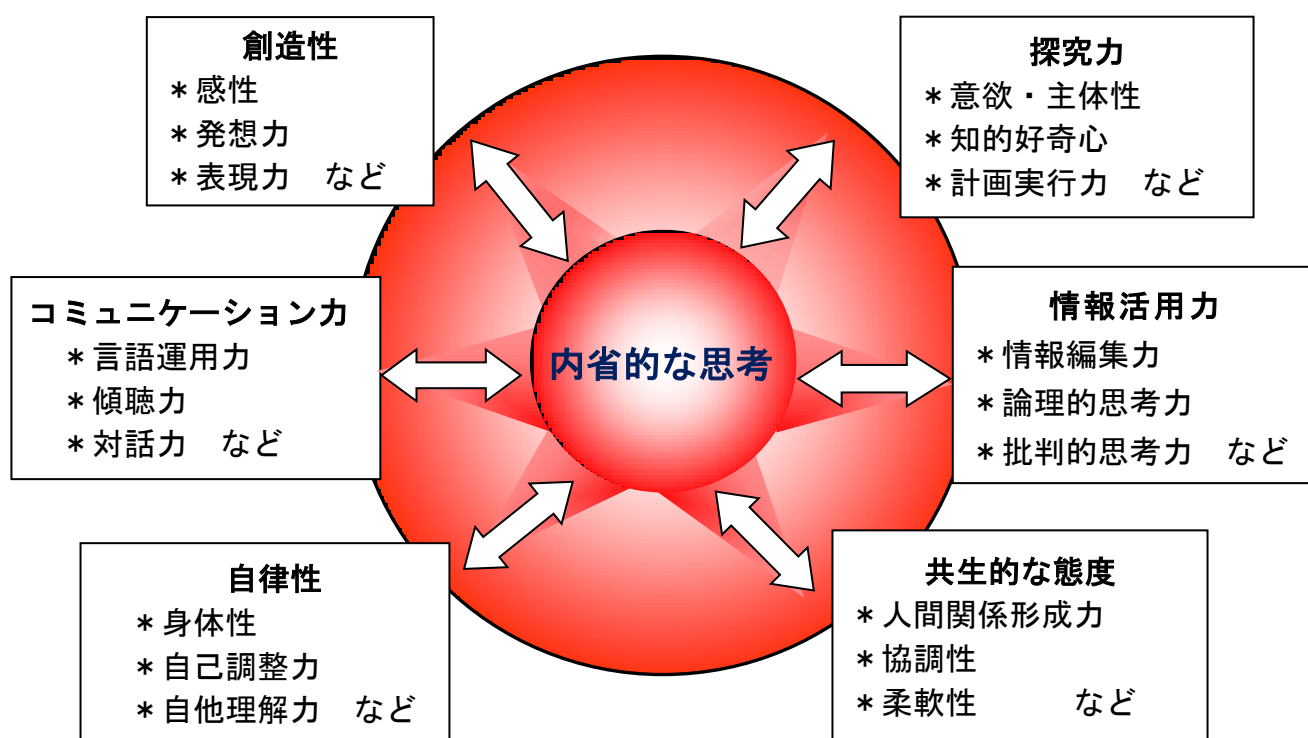
る。人は、「こうしたい」という願いをもつことで、自ら考えたり行動したりしていく。また、人は一人で生きていくことはできない。人は、自然や他者と関係し合いながら生きていく。人が、思いや願いを実現するには、自然や他者との共生が欠かせない。「〈自立〉した一人一人が、自然や他者との〈共生〉を大切にし、互いのよさや違いを認め合いながら共に活動すること」が、これからの社会を切り拓くことにつながる。思いや願いは、〈自立〉と〈共生〉を支え、これからの社会を切り拓いていく資質・能力の育成を促す。

当校は、このようなことから、子どもの「思い」や「願い」を重視し、真の〈自立〉と〈共生〉を目指した教育課程を編成・実施する。

Ⅱ 「6つの資質・能力」の発揮を目指した教育課程

子どもは、「こうしたい」「もっとこうしたい」という願いが高まり問題解決に向かうとき、自分のもっている資質・能力を十分に発揮する。

そこで、子どもの発揮する資質・能力を以下のように整理し、教育課程全体ではぐくんでいく。



【探究力】物事の本質を深く探ろうとする力

【情報活用力】知識・情報を生かしながら、考えを論理的に整理する力

【コミュニケーション力】言葉を通して、周りのもの・こと・人にかかわる力

【創造性】新しいものを創り出していく力

【自律性】自分で自分自身（心身）を調整していく力

【共生的な態度】周りのもの・こと・人との関係をよりよくしていく態度

<基盤となる資質・能力>

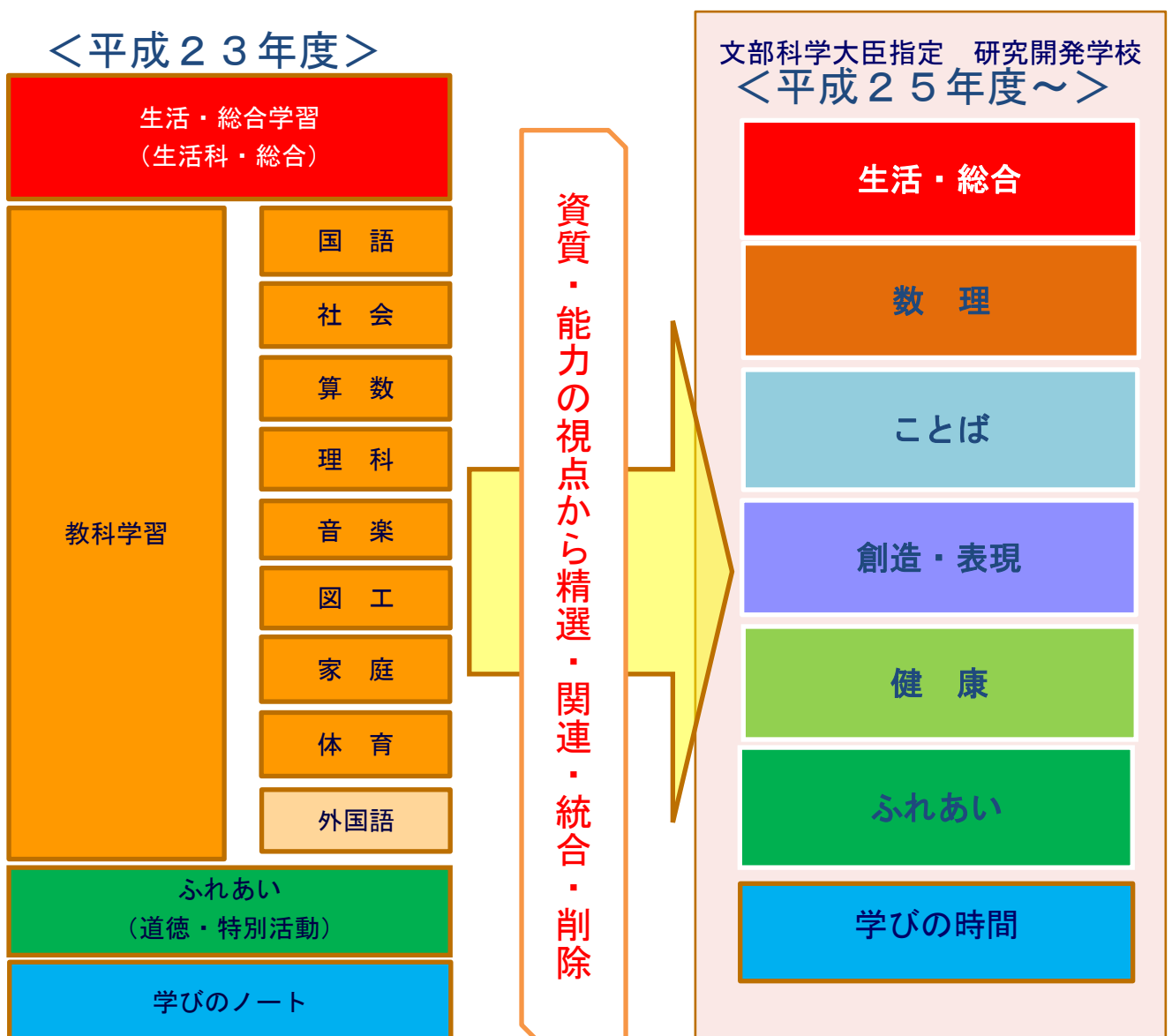
【内省的な思考】自分の考えや行動を振り返り、これからの自分の在り方を考えようとする思考

当校では6つの資質・能力の発揮を目指す授業を構想、展開する。この「6つの資質・能力」は、「授業（活動）のねらいの設定」「授業（活動）の構想」「授業（活動）の評価規準の作成」「授業（活動）分析」等、個々の場面で検討するときの中核になっていく。

「授業（活動）の評価規準」は、子どもが授業中にどのような6つの「資質・能力」を発揮しているか見取るための規準である。各領域、各単元、各授業において、どのような資質・能力が発揮できそうか予想を立て、指標をもとに評価規準を設定する。このことにより、教師は、一人一人の学習状況を具体的に見取ることができるようになる。また、6つの資質・能力の発揮という視点で子どもを見ると、これまで各教科や領域で見えなかった子どものよさを見取ることができるようになる。それは、子どもが資質・能力を発揮する姿を見るために、学習の過程を評価することになるからである。また、一人一人の個性的な資質・能力の発揮を見ることにもつながる。例えば、「情報活用力」という観点で子どもを見ると、授業の過程で、どのような情報を収集し、どのように整理し、どのように活用しているかが見えてくる。「コミュニケーション力」という観点で子どもを見ると、言葉を介して積極的に友達とかかわって学ぼうとする子どもの姿が見えてくる。「共生的な態度」という観点で子どもを見ると、隣の友達に優しく教えてあげている子どもの姿が見えてくる。「6つの資質・能力で子どもを見る」ということは、子どもの学んでいる様子を丸ごと見取ることにつながっていくのである。

Ⅲ 6領域と「学びの時間」による教育課程

私たちは、前述した6つの資質・能力の育成に着目した教育課程を編成することとし、その目指す姿（資質・能力）から現行の教育課程を見直し、教育内容の精選・関連・統合・削除等を行いながら、領域を編成し、実践を積み重ねてきた。



〔生活・総合〕

この領域は、「主体的に探究しながら、よりよい自分の生活を創っていく態度をはぐくむ領域」として設定する。

- 「生活・総合」領域は、身の回りの事象を対象とし、子どもの思いや願いを基にした探究的な学習を行う。主な学習材として、山羊や牛などの飼育、野菜の栽培、朝市、商店街、川、食問題、ふるさなどを対象とする。子どもの「育ててみたい」「調べてみたい」という願いの基に「探究力」の発揮を重視した活動を行うが、自分の暮らしや地域の問題解決のために、6つの資質・能力を総合的に発揮していく領域として構想・展開していく。

〔数理〕

この領域は、「論理的に思考しながら、問題を解決していく態度をはぐくむ領域」として設定する。

- 「数理」領域は、日常の数理的な事象における「子どもの問い」を大切にされた問題解決的な学習を行う。主な学習材として、「数量・図形・自然科学」を対象とする。「晴れなのに気温が下がる」「水に沈む木がある」など、子どもの「なぜだろう？」という知的好奇心を喚起し、情報を収集したり、論理的に考えたりする「情報活用力」を重視した活動を行う領域として構想・展開していく。

〔ことば〕

この領域は、「言語を使って自分の考えをまとめたり、人とかかわったりしていく態度をはぐくむ領域」として設定する。

- 「ことば」領域は、言語を使って「話す」「聞く」「書く」「話し合う」などの相互作用的な学習を行う。主な学習材として、日常生活での体験、他領域での学習、教科書教材の「説明文」「物語文」等を対象とする。人とかかわりながら心情を伝え合うための「コミュニケーション力」を重視した活動を行う領域として構想・展開していく。

〔創造・表現〕

この領域は、「感性を磨き高めながら、創造性を養う領域」として設定する。

- 「創造・表現」領域は、感性、発想力、表現力などを高めるための創造する学習や表現する学習を行う。主な学習材として、「音・もの・身体」を対象とする。音楽表現、造形表現、身体表現を総合的に取り入れながら、自分の感性を生かす「創造性」を重視した活動を行う領域として構想・展開する。

〔健康〕

この領域は、「健康で心豊かな生活を自ら築き上げていく態度をはぐくむ領域」として設定する。

- 「健康」は、運動で心身を鍛えたり、自分の心身や生活を見つめたりする、めあて追究型の学習を行う。主な学習材として、「運動」「心身の成長」「日常生活習慣」等を対象とする。自分で自分自身を知り、心身を調整していく「自律性」を重視した活動を行う領域として構想・展開する。

〔ふれあい〕

この領域は、「他者とのかかわりの中で、豊かな心情をはぐくむ領域」として設定する。

- 「ふれあい」は、年間を通して様々な「同年齢集団活動」「異年齢集団活動」を行い、それぞれの活動の前後に体験の意味を深める学習を行う。「スポーツフェスティバル（運動会的行事）」「なかよし遠足」「マーチングバンド」など、子どもたちが目的・目標を考え、自ら準備したり工夫したりする活動を学習材とする。進んで協力したり、友達の気持ちを考えたりしようとする「共生的な態度」を重視した活動を行う領域として構想・展開する。

〔学びの時間〕

「学びの時間」は、子ども自身が6領域での学びをつなぎ、統合する時間として設定する。子どもは、内省的に自己の学びを振り返り、意味付けたり関連付けたりしながら、自分の学びを広げ、深めていく。各領域で学んだことや考えたことを「連絡帳」や「学びのシール」に書きため、これらを「学びの時間」に振り返って読んだり、KJ法的に学びのシールを分類・整理したりすることを通して、気付いていなかった自分の成長や学びを発見したり、自分の学びを確かにしたりする。この「学びの時間」は、子どもがカリキュラム全体で学んだことを総合的に表出している時間であり、教師がカリキュラムを評価する上で、重要な情報を得る役割も担っている。

Ⅳ 体験活動と言語活動のつながりを重視した教育課程

「もっと知りたい」「こんなことしたい」という子どもの思いや願いの実現を重視した「体験活動」において、子どもは【探究力】や【創造性】を存分に発揮して活動に臨むため、一人一人の主体的で個性的な学びを生み出す。また、このような「体験活動」においては、必然的に他者とかかわったり、協働的に学んだりすることが多い。そのため、【自律性】や【コミュニケーション力】、【情報活用力】や【共生的な態度】の資質・能力を発揮しながら対象に対して深く接すれば接するほど、その子らしいかかわり方やこだわり、見方や考え方が生まれていく。

しかし、どんなに多様な「体験活動」をしても、その体験を振り返り深めなければ、その場限りの活動で終わってしまう。また、どんなに本物に出会っても、そのときの感動を書き綴る中で自分の生き方と対峙しなければ、自己の成長に結び付けることはできないだろう。つまり、子どもが資質・能力を発揮し、自らを高めていくには、自分の思いや願い、対象に対する考えをしっかりと持っていることが大切である。また、体験したことの意味や価値をしっかりと振り返ることも重要になる。

そこで、体験した後に、一人一人がしっかりと内省できるための「言語活動」を重視してきた。体験における学びを言語化することで、子どもは体験したことを意味付け、深めていくことができる。そのために、それぞれの領域ごとに活動を振り返ったり、意味や価値を話し合ったり、学んだことをまとめて書いたりする「言語活動」を設定してきた。さらに、6領域とは別に「学びの時間」を設定し、各領域で学んだことや考えたことを連絡帳や学びのシールに書きためた。これらを「学びの時間」に振り返って読んだり、KJ法的に分類・整理したりすることを通して、気付いていなかった自分の成長や学びを発見したり、自分の学びを確かにしたりする子どもたちの姿があった。つまり、6つの資質・能力の発揮を大いに促す豊かな「体験活動」と、子どもの学びの自覚化を図る【内省的な思考】が大いに発揮される確かな「言語活動」を効果的に位置付けることによって、子どもは資質・能力を十分に発揮し、体験と言語をつなぎながら、自ら考え、自ら学んでいくのである。

(2) 研究の経過

| | 実施内容等 |
|------|---|
| 第1年次 | <ul style="list-style-type: none">・新領域の目標具現のための単元開発を行い、資質・能力の発揮の実態を蓄積する。・これまでの研究をもとに、5領域の指標を作成し、実践を通して修正・改善する。・教職員の見取りや子ども、保護者への意識調査から、子どもの「自ら学び、共によりよく生きようとする子ども」にかかわる実態をとらえ、評価するための指標を具体化する。・実践を通して、新設する5領域における「ねらい」「目指す子ども像」「はぐくむ資質・能力」「学習内容」等を探り、指導計画を作成していく。・5領域についての公開授業研究やレポートによる情報交換を通し、全教職員間で「目指す子ども像」「資質・能力の発揮」「領域の構造」等の共有化を図る。・職員が、先進的に研究を進めている県内外の学校を訪問したり、大学の教官の話を聞いた |

| | |
|------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> りできる機会を設け、最新の教育事情や動向を収集し、研究推進に生かす。 ・研究の経過や次年度のグランドデザイン等をまとめ、家庭・地域への情報提供を行う。 ・1年目の取組を公表する場として研究会（2月）を行い、成果（実施の効果）と課題を整理する。 |
| 第2年次 | <ul style="list-style-type: none"> ・「自ら学び、共によりよく生きようとする子ども」をはぐくむための6領域の「構成原理」や「内容構成」について、実践を通して整理する。その際、幼稚園や中学校との接続という観点からも、内容構成を吟味したり、領域の意味付けをししたりする。 ・「生活・総合」「数理」「ことば」「創造・表現」「健康」「ふれあい」における評価を日常や節目の見取りを生かしたカリキュラム改善のシステムを活用して実施し、子どもの資質・能力の育ちを見取り、支援していく。 ・職員が、先進的に研究を進めている県内外の学校を訪問したり、大学の教官の話を聞いたりできる機会を設け、最新の教育事情や動向を収集し、研究推進に生かす。 ・研究の経過や次年度のグランドデザイン等をまとめ、家庭・地域への情報提供を行う。 ・2年目の取組を公表する場として研究会（1月）を行い、成果（実施の効果）と課題を整理する。 |
| 第3年次 | <ul style="list-style-type: none"> ・「自ら学び、共によりよく生きようとする子ども」をはぐくむための6領域の構造を、実践を通して整理し明らかにする。 ・「自ら学び、共によりよく生きようとする子ども」をはぐくむ6領域による教育課程の成果を明らかにする。 ・職員が、先進的に研究を進めている県内外の学校を訪問したり、大学の教官の話を聞いたりできる機会を設け、最新の教育事情や動向を収集し、研究推進に生かす。 ・3年間の取組の成果として研究会（1月）を行い、「子どもの姿」や「研究紀要」等を通して教育課程開発の効果を全国に発信する。 |

（3）評価に関する取組

| | 評価方法等 |
|------|---|
| 第1年次 | <ul style="list-style-type: none"> ・「自ら学び、共によりよく生きようとする子ども」をはぐくむために必要な「5つの資質・能力」を評価する指標を設定し、子ども、保護者、教職員を対象にした実態調査（アンケートによる意識調査）を行う。（7月と2月に実施し、その実態をつかむ） ・5つの資質・能力が発揮されている具体的な子どもの姿を教師が見取り集積していく。それらを分析し、各領域における資質・能力を評価する具体的な指標を明確にする。 ・「生活・総合」「数理」「ことば」「創造・表現」「ふれあい」における評価を、パフォーマンス評価等を参考に実施し、子どもの資質・能力の育ちを評価し、当校の課題を明確にする。 ・運営指導委員会や学校運営協議会で、「子どもの姿」をもとに「自ら学び、共によりよく生きようとする子どもをはぐくむ教育課程」（新領域による教育活動や教育課程編成）についての意見を整理し、改善に生かす。 ・教職員による教育課程評価を実施する。（7月と12月に実施） ・研究発表会（2月）を行い、1年目の取組の成果（実施の効果）と課題を整理する。 |
| 第2年次 | <ul style="list-style-type: none"> ・6つの資質・能力を評価する具体的な指標を設定し、子ども、保護者、教職員を対象にした調査（アンケートによる意識調査）を行う。結果を前年度のものと比較、検討し、目指す子ども像に迫れているかどうか、また、その要因は何かを分析する。 ・授業を通し、発揮してほしいと期待した子どもの姿を予想し、期待した反応を見せなか |

| | |
|--------------------|---|
| | <p>った子どもの姿を分析しながら、単元や領域の研究を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活・総合」「数理」「ことば」「創造・表現」「健康」「ふれあい」における評価を、日常や節目の見取りを生かしたカリキュラム改善のシステムを活用して実施し、子どもの資質・能力の育ちを評価し、指導・支援に活かす。 ・運営指導委員会や学校運営協議会で、「子どもの姿」をもとに「自ら学び、共によりよく生きようとする子どもをはぐくむ教育課程」についての意見を整理し改善に活かす。 ・「児童・保護者アンケート」を7月と2月に行い、子どもや保護者の意識の変容を数値的に分析し、成果と課題を明らかにする。 ・教職員による教育課程評価を実施する。（7月と12月に実施） ・研究発表会（1月）を行い、2年目の取組の成果（実施の効果）と課題を整理する。 |
| <p>第3年次</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・6つの資質・能力を評価する具体的な指標を設定し、子ども、保護者、教職員を対象に調査を行う。結果を前年度までのものと比較、検討し、目指す子ども像に迫れているかどうか、また、その要因は何かを分析し、成果を明らかにする。 ・授業研究を通し、6つの資質・能力が発揮されている具体的な子どもの姿を見取り集積する。そして、前年度までと比較して目指す子ども像に迫れているかどうかを分析し、成果と課題を明らかにする。 ・運営指導委員会や学校運営協議会で、「子どもの姿」をもとに「自ら学び、共によりよく生きようとする子どもをはぐくむ教育課程」についての意見を整理し、成果と課題を明らかにする。 ・「児童・保護者アンケート」を7月と12月に行い、子どもや保護者の意識の変容を数値的に分析し、成果と課題を明らかにする。 ・教職員による教育課程評価を実施する。（7月と12月に実施） ・研究発表会（1月）を行い、3年間の取組の成果（実施の効果）と課題を整理する。 |

5 研究開発の成果

（1）実施による効果

<児童への効果>

私たちは、子どものもつ資質・能力が存分に発揮されるために、子どもの「思い」や「願い」を重視し、豊かな体験活動と確かな言語活動を効果的に位置付けながら、6領域と「学びの時間」による教育課程を編成・実施してきた。

様々な活動において、自ら対象に粘り強くかかわりながら【探究力】、他者と積極的にかかわり【コミュニケーション力】、相手を思いやったり、推し量ったり【共生的な態度】、自分の心身に向き合いながら【自律性】、自分の考えを整理し、再構成し【情報活用力】、自分の思いや願いを自分らしく表す【創造性】姿が見られた。このような子どもの育ちは、当校の教育課程の中核である「生活・総合」と、基盤に位置付けている「ふれあい」が、他の領域と共振しながら効果的に機能している成果と考えている。

以下は、1～6年生の「6つの資質・能力の発揮に関する自覚（自己評価）」と保護者の「子どもの育ち（6つの資質・能力の発揮）」に関するアンケート結果である。評価は「そう思う」「おおむねそう思う」の割合（純肯定率）である。（項目は他に「どちらでもない」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の5つ）

| アンケート項目 | | 保護者 | | | 児童 | | |
|--------------|--------------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | H24 7月 | H25 7月 | H26 7月 | H24 7月 | H25 7月 | H26 7月 |
| 〔探究力〕 | | | | | | | |
| 1 | 自分の思いや願いをもって、様々な活動に進んで取り組む。 | 98% | 98% | 98% | 93% | 96% | 94% |
| 2 | 興味関心をもったことに粘り強く取り組む。 | 96% | 97% | 98% | 93% | 92% | 95% |
| 〔情報活用力〕 | | | | | | | |
| 3 | 知りたいことを人に聞いたり、本などで調べたりする。 | 92% | 94% | 95% | 92% | 95% | 93% |
| 4 | 様々な問題を筋道立てて考える。 | 83% | 88% | 91% | 85% | 85% | 87% |
| 〔コミュニケーション力〕 | | | | | | | |
| 5 | 伝えたいことを分かりやすく相手に話す。 | 73% | 81% | 83% | 86% | 85% | 88% |
| 6 | 相手の話をしっかり聴く。 | 81% | 83% | 85% | 94% | 85% | 93% |
| 〔創造性〕 | | | | | | | |
| 7 | 自分の発想（アイデア）を生かして活動に取り組む。 | 91% | 95% | 97% | 92% | 93% | 92% |
| 8 | 自分の考えを表情・言葉・絵など様々な方法で表現する。 | 94% | 96% | 94% | 90% | 92% | 92% |
| 〔自律性〕 | | | | | | | |
| 9 | 自分のめあてや目標に向かって楽しく運動したり生活したりする。 | | 90% | 93% | | 93% | 94% |
| 10 | 食事や睡眠、運動などに気をつけながら生活する。 | | 85% | 87% | | 89% | 88% |
| 〔共生的な態度〕 | | | | | | | |
| 11 | 友達と協力して活動する。 | 98% | 97% | 99% | 97% | 98% | 99% |
| 12 | 家族や友達を思いやる気持ちをもっている。 | 98% | 98% | 100% | 97% | 94% | 97% |
| 〔内省的な思考〕 | | | | | | | |
| 13 | 自分のよさや成長、がんばりが分かっている。 | — | 93% | 95% | — | 90% | 95% |

3カ年のアンケート結果から、子ども保護者ともに、【探究力】や【共生的な態度】を高く評価している。これまで大切にしてきた教育課程の中核として位置付けている「生活・総合」領域の学び、教育課程の基盤としての「ふれあい」領域の学びの成果が着実に表れている結果と言える。また、平成26年7月の結果では、13項目のうち7項目が児童の自己評価より保護者の評価が上回っている。児童の学びに向かう姿を、保護者が肯定的に受け止めているという結果からも、本教育課程の成果がうかがえる。本校の教育理念に賛同し、学習支援ボランティア活動（学び・ささえ隊）や学校行事に積極的に参加し、子どもの活躍する姿を実際に保護者が見て感じる事が、教育活動への満足感や子どもの確かな成長や手ごたえへの評価として表れているものとする。

<教師への効果>

カリキュラム実践研究を通して、以下のような教師の成長が見られる。

- ・「6領域で6つの資質・能力をはぐくむ」という視点で教育活動を構想、展開することで、よりダイナミックな活動を構想し、長いスパンで子どもの成長を見取る姿勢が備わってきている。〔指導観〕
- ・6つの資質・能力の発揮を見取るために、学びの結果ではなく子どもの学びの過程の評価を重視していることや、その学びの過程において一人一人の個性的な資質・能力の発揮に着目し、子どものよさを見ようとする教師が育っている。〔子ども観・評価観〕
- ・教育課程研究に携わることにより、新たな教育課程の創出に向けて、職員が一丸となってその課題に向けて取り組んでいる。〔同僚性の発揮〕
- ・日常の子どもの学ぶ姿を「資質・能力」で見る眼が育ってきている。〔評価観〕

- ・学校に伝わる「模倣と形式化は腐敗と停滞を生む」という格言のもと、子どもの資質・能力をはぐくむために、担任は子どもにとってよいと思う単元開発や授業創りにどんどん挑戦している。また、それができる環境と、それを前向きに受け止め、活動を推進させるために労を惜しまず協働していくバックアップ体制が備わっている。〔協働性の発揮〕

また、当校には年間多くの学校訪問者が来校するが、学校や職員に対して、下記のような感想をいただいている。

- ・「子ども」を中心とした教育活動を展開している大手町小学校の方針に深く感動しました。まず感じたことは「子どもたちの眼」が違うことです。自分たちがやりたいことを決定し、教師がサポートに徹するという形がすばらしく、子どもたちが意志をもって活動していることが「眼」の輝きで分かりました。先生方の姿に、自分の「教師観」が揺さぶられました。〔学校観・教育観〕
- ・大手町小で育つ教師の姿、教師の能力開発を促すシステムがすばらしい。（授業ワークショップがその中心になっているのですね。）〔教育課程研究のシステムのよさ〕
- ・自分から進んで学びながらその学びの過程を先生がいつも温かく受け入れ、その子を認める体制ができています。一日の終わりに担任の先生からその学びを大いに認めてもらえる中で、自分のよさに気付いていくと思います。〔指導観〕

<保護者への効果>

アンケートや学年懇談会、連絡帳において、保護者の率直な考えが学校側に寄せられている。

子どもの思いや願いを大切にした教育課程

- ・「今日は〇〇をしたよ!」「〇〇先生がこんなことしてくれたよ!」「はじめて〇〇したよ!」と毎日お話ししてくれます。子どもにとって毎日楽しい学校生活、教育活動なんだなあと伝わります。ありがとうございます。【1年】
- ・子どもたちの思いをくみ取り、学びにつなげていただく教育姿勢に大変ありがたく思います。【1年】
- ・様々な活動を体験することでいろいろな事を考えられるようになってきていると思います。これからも“型”にとらわれず、様々な活動を行う大手町小であってほしいと願っています。【2年】
- ・親が子どもに与えられないような経験を学校の活動の中で経験できるということをととてもありがたく思います。そして、何より子どもが笑顔で「行ってきま〜す」と家を出る姿を見て、学校が楽しいところなのだ安心していきます。【3年】
- ・子どもたちの思いや疑問を丁寧に受け止めて「こうしたい!」という学びの姿勢へと導いて下さるご指導に大変感謝しております。人から与えられるのではなく、しっかりと自分の考えをもち、人前で発表できるという子どもたちに育っていることを本当に嬉しく思っています。【4年】

自ら考え動き出す子ども～自立～

- ・子どもたちの興味ややりたいことに沿って、ダイナミックに活動しているところにびっくりしています。自分たちで考えて活動することが身に付いてすばらしいと思います。【4年】
- ・以前よりも、頑張っている自分を認めて更に上の段階を目指そうとする気持ちが強くなっていると感じています。大手町小に来てよかったなあと思う毎日です。【5年】
- ・自分の意見をもち、人前でもしっかりと発表できるコミュニケーション力が子どもたちに育っていることを嬉しく思います。子どもを取り巻く社会も常に変化し、必要としなくても「正しい」「正しくない」にかかわらず、多すぎる情報に囲まれ、また簡単に情報が手に入ってしまう・・・そんな中で自分の学びたいことに意欲をもって取り組む姿勢のある子どもたちに育てていただいていることに大変感謝しております。【6年】

- ・大手町に来てからとても伸び伸びと学校活動にも自ら進んでやってみたくて言い出したり、勉強面でも今までに見られない位意欲的に取り組んだりしている姿が見られ、とても安心しました。【6年】

互いのよさや違いを認め合う子ども～共生～

- ・子ども同士が相手の意見をしっかり聞き合うことで、聞く力、伝える力が身に付いていると思います。

【2年】

- ・なかよし班の活動を通しての異学年のお友達との交流や先生、家族、地域の方など、様々な刺激を受けて、そこからたくさんを学んでいける環境がとてもよいと思います。今後も周りにはたくさんの方々に支えられながら、子どもたちが自ら学び行動できる大手町小学校であってほしいです。

【4年】

- ・子どもが自由に伸び伸びと活動できる大手町小の校風は、地域の子どもの様子にも表れていると思います。校外での子どもたちは、とても元気です！【5年】

- ・低学年の頃は、友達と「仲良く」「協力」ということを、様々な場面でとても丁寧によさを伸ばして下さいました。高学年になってからは、自分の内面を見つめる機会を折に触れて先生方が作って下さいます。自分の内面と友達への思いやりがとてもいいバランスで育ってきていると思います。【5年】

児童の育ちを肯定的にみてくださる保護者がほとんどである。特に、子どもの思いや願いを大切に、子どものよさを引き出したり、子どもが見つけた課題から学習活動を創ったりしていく職員の教育観、子ども観、取組の姿勢に対して、高く評価している。また、異学年交流や縦割り班の活動による「共生的な態度」をはぐくむ教育課程のよさや、生活・総合領域によるダイナミックな学びと基礎基本の徹底のバランスについても指摘している。6つの領域と「学びの時間」の活動が有効に機能し、一人一人の子どもが資質・能力を十分に発揮しながら、確かな学力が育まれていることの表れであると考えられる。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

3年間の研究指定の終盤を迎え、「自ら学び、共によりよく生きようとする子ども」の姿の具現について、実際の子どもの変容や育ちの実感から、かなりの手応えを感じている。しかし、これからの社会を切り拓くための「資質・能力」を育成する教育課程の成果を確かなものにするには、引き続き本教育課程のよさや課題を検証する必要がある。

特に、子どもたちの6つの資質・能力の発揮の様相から、資質・能力の相互の関係性や発揮の順序、階層性等の構造が、子どもの資質・能力の発揮に関係していることが分かってきている。また、資質・能力の育成には良質な学習内容や学習材の存在が不可欠であることも分かってきている。

したがって、引き続き研究を進め、資質・能力の発揮の様相と、資質・能力の発揮を促す学習内容や学習材の在り方についても検討を加えたい。その上で、資質・能力と学習内容とが一体化して育まれる大手町小学校の教育課程を創造していきたい。